



2015年：シャブリ/Chablisにとって、とても良い年

2015ヴィンテージは、理想的な条件のもと、ファンファーレとともに始まった。発芽はわずかに遅かったが、問題なく進み、今年は春の霜もなかった。その後の穏やかな気温と、4月の著しい雨により、ぶどう樹は成熟の遅れを取り戻した。早くも春から、**2015年は早熟だ!**と言われていた。ぶどうは6月初めに急速なリズムで開花した。これは過去10年平均に対し数日早く、収穫の開始が9月の最初であることを予想させた。

2015年はまた、夏の異例の天候も特徴である。夏は天気が良く、暑かった。とても暑かった!そして雨は少なかった。特に7月は少なかった。酷暑と結びついた乾燥により、ところどころでぶどう樹の生長が止まったが、8月に少し雨が降り、ぶどうの生長には刺激となった。

収穫前夜、このヴィンテージは桁外れに素晴らしいことが予想され、果実は黄金色になり、健全で、糖分にあふれ、収穫作業スタッフを待つだけとなった。

しかし9月1日、雹まじりの雷雨が、イランシイ/ Irancy からシトリイ/ Chitry、クールジ/ Courgis と狭い通り道を通り、モンマン/ Montmains に沿って、グラン・クリュの丘陵地帯まで進み、レ・クロ/ Les Clos、ブランショ/ Blanchot、モンテ・ド・トネール/ Montée de Tonnerre のクリマ/ Climats に特に被害を与えた。程度の差はあるものの、シャブリ全域の5,400haの畑の中で、300ha以上が影響を受けた。

この問題に直面し、この年が早熟であったことは切り札となった。9月初め、ぶどうはすでに熟していた。被害を受けた区画では、品質を保つために、ぶどうは素早く収穫された。生産者間の助け合いが功を奏した。雹の被害を免れた生産者は、被害を受けた生産者が最速で収穫できるように、労働力や機械を貸したのだ。

深刻な影響を受けたドメヌもあつたものの、全般的に損失は限られており、このヴィンテージのとても良い品質が維持された。

収穫は2週間の間に集中的に行われ、果房は豊かな糖分と、満足のいく酸味を見せていた。アルコール醱酵は、豊かな果実のニュアンスのうちに終わった。2015年は太陽に恵まれた年と形容され、2014年よりも陰影や塩味は少ないであろう。

シャブリ/Chablisの醸造アドバイザーであるジャック・レサンプルは、2015年はとても良いヴィンテージとなるであろうと確信している。「酸味の不足を疑う人もいるが、それは問題ない。柔らかすぎるワインはとても稀である。2015年は、太陽に恵まれ、果実味が際立っている。消費者にとって手に取りやすいワインであろう。私としては、シャブリ/Chablisのとても良いヴィンテージの一つである」。

お問い合わせ : Françoise Roure – Responsable Marketing/Communication BIVB-Chablis
Tél. : + 33(0)3 86 42 42 22 – Fax : + 33(0)3 86 42 80 16 – francoise.roure@bivb.com